

## 水道財政のあり方に関する研究会（第4回）

### 1 開催日時等

- 開催日時：平成30年6月22日（金）10:00～12:00
- 場 所：総務省601会議室
- 出席者：石井座長、石井委員、石田委員、是澤委員、関口委員、  
望月委員、谷委員代理  
小倉大臣政務官、大西公営企業担当審議官、藤井公営企業課長、  
本島公営企業経営室長、伊藤準公営企業室長、松尾課長補佐 他

### 2 議題

- (1) 水道事業の持続的な経営を確保するために必要な対策の考え方について
- (2) その他

### 3 配布資料

水道事業の持続的な経営を確保するために必要な対策の考え方について

### 4 概要

- (1) 事務局より資料について説明。
- (2) 出席者からの主な意見
  - 給水原価が適切に設定されているかを議論するためには、厚生労働省で推進しているアセットマネジメントを適切に行い、将来の更新投資に備えて資産維持費などをどのように積んでいるかが重要となる。
  - 水道事業は、最初に多くの資本費用がかかると平均費用が高くなるため、給水量に応じた限界費用をいくら下げても、供給原価が大きくなることから、人口減少が起きているところで施設設備をどう更新していくか、資本の設備の適正水準をどこにするか、非常に重要になる。
  - 料金の格差がある場合、広域化によって全体としては平準化できたとしても、安い地域にとっては料金の引上げになるため、そこに国の支援があれば、さらに取組が進むと思う。
  - 職員数の少ない団体などでは、経営戦略やアセットマネジメントが形だけになっていることもあり、適切なアセットマネジメントや経営戦略を策定した上での広域化の取組が必要である。
  - 広域化の重要性はずいぶん前から言われているが、実際の現場で様々な課題を抱え、苦勞している状況であり、取組を強力に推進するためには、取組に対する財政的なメリットや、逆に取組を行わない場合のディスイ

ンセンティブなども必要ではないか。

- 管理者や首長、議会の意識改革を行い、現在の経営状況は大丈夫であると悠長に構えるのではなく、今後 10 年間の間に厳しい状況を迎えるという危機感を持ってもらう必要がある。
- 現在、アセットマネジメントの標準精度であるタイプ 3・C を行っている事業体が全体の 3 割にとどまっているが、この割合が上がれば、料金と料金回収率の分析に将来推計を組み込むことが可能になり、全体の状況をより認識しやすくなると思われる。
- アセットマネジメントに基づいてデータをインプットすると、今後の更新経費や料金の予測ができるツールを充実させることが重要である。